

'57 and '62 Vintage Precision Bases

世界初のソリッドボディ・エレクトリックベース“プレジジョン”の最初のモデルチェンジは、1954年のコンフォートボディへの移行とサンバーストフィニッシュの導入である。しかしこの偉大なるベースの歴史を語る上でこの時の変化はさほど重要ではない。何よりも重要なのは1957年のモデルチェンジと62年の最終的な完成である。

'57年のモデルチェンジ、それはスプリット・ピックアップの搭載である。今なお変わることなく受け継がれている1×2の小さなピックアップは2個1組で、1・2弦側用と3・4弦側用とを互い違いに取り付けら

れ、1本の弦に対して2個のポールピースが割りあてられるようになっている。

これによって振幅の大きいベースの弦の動きを確実にキャッチ出来、さらにこの2個1組のピックアップはそれぞれのコイルが逆巻で逆極のマグネットを持たせ、これをシリーズワイアリングすることでハムキャンセリング効果をも得られる画期的なものである。

このピックアップによりプレジジョンベースは一応の完成を見たと言っている。その後、フィニッシュやピックガードなど細かな部分で変化し、ローズウッド・フレットボードの採用、そしてその貼り方の確立を最後にベース史上揺るぎない地位を築くことになるプレジジョンベースは事実上の完成に至った。1962年、デビューから12年後のことである。今、シリーズにある2種のプレジジョンはこうした完成度の高い時期のモデルのレプリカである。

Pick Guard

'57モデルには当時一時的に採用されたアルミダイオキシドアルミニウム・ピックガードを、'62モデルにはベッコウ柄セルロイド系ピックガードをマウントしてオリジナルを再現している。

Pickup

スプリット・ピックアップ。1/3世紀を超えた今もなお、他の追随を許さぬ画期的なこのピックアップはフェンダーの偉大さの証明でもある。



Pick Guard

Pickups

'57 Vintage Precision Bass
(Re-issue of 1957 production)
1 Split single-coil (Series-wired, diametrically phase)

'62 Vintage Precision Bass
(Re-issue of 1962 production)
1 Split single-coil (Series-wired, diametrically phase)

'62 Vintage Jazz Bass
(Re-issue of 1962 production)
2 separate single-coil (Series-wired, diametrically phased)
2 Volume, 2 Tone

Controls

1 Volume, 1 Tone

1 Volume, 1 Tone

34" (863.6mm)

Pickup Selector

34" (863.6mm)

Rosewood

Rosewood

Scale Length

Maple

20 Vintage style

20 Vintage style

Fretboard

7.25" (184.2mm)

7.25" (184.2mm)

7.25" (184.2mm)

Frets

—

—

—

Radius

Alder

Alder

Alder

Tremolo

803, 806, 841

800, 806, 841

800, 806, 841

Body Material

Colors

Special Features



'62 Vintage Jazz Bass

プレジジョンベースのグレードアップバージョンとして世に送り出されたジャズベース、その違いは、まずネックの変更である。プレジジョンの太く、かつローからハイまでグリッパのあまり変化しないネックに対し、ペーシストがつかって慣れ親しんだ、弾き易さを感じ得るローズウッド・フィンガーボードでウッドベーススタイルのテーパーの強いものに変更された。

次にボディについては当時、同時進行で開発されていたストラトキャスターのグレードアップモデル“ジャガー”及びその前身であるジャズマスターの影響を受け、プレジジョンの普及で変化した、ペーシストのブレイクスタイルによりマッチする平行四辺形のオフセットウエスト・コンタドボディが採用された。

ピックアップについてはさらに斬新な試みがなされた。プレジジョンで高い評価を得たダブルポールピース・システムはそのままだに、2個1組であったピックアップを1つにまとめトーンレンジを広げるとともに、これを逆相に2個マウントし、それによって一度は失われたハムキャンセリング効果を再び取り戻し、それぞれのピックアップにポリウムとトーンをコントロールさせることで、無限とも言えるトーンバリエーションを実現したものである。

ジャズベース、その誕生は1962年のことであり、今、ヴィンテージシリーズに残したのは、その最も初期のオリジナルにのみマウントされた2連コントロールのモデルである。



Control

Controls

2連ポットコントロールは内側がポリウム、外側がトーン。フロント、リアそれぞれの組み合わせでバリエーションは無限。またブリッジから走る細い金属ストラップはアース線。いずれもこの時期のものにだけ見られるスタイルである。